

**2016年12月期 第2四半期
決算説明資料**

協和発酵キリン株式会社

2016年 第2四半期 決算概況

代表取締役社長 花井 陳雄

Financial review

取締役 常務執行役員 立花 和義

R & D review

代表取締役社長 花井 陳雄

Q & A session

本資料には、当社（国内外の連結子会社を含む）の見通し、目標、計画などの将来に関する記述が含まれています。これらの将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報、予測をもとになされた当社の合理的な判断に基づくものですが、実質的にこれら記述とは大きく異なる結果を招く不確実性を含んでいます。

これら不確実性には、国内外製薬業界の事業活動に潜在するリスク、知的財産権にかかるリスク、副作用に関するリスク、法的規制リスク、製品の欠陥等の発生リスク、原燃料価格の変動リスク、製品市況価格の変動リスク、為替・金融市場の変動リスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

**2016年第2四半期業績は、前年同期比で減収減益となるも
上期予想に対して医薬事業は増収増益
バイオケミカル事業は概ね計画どおりとなった**

- 医薬事業では、新製品群 ジーラスタ®、ノウリアスト®、ドボベット®、オングリザ® や主力製品であるネスプ® やレグパラ®の売上が順調に進捗し、国内医薬品売上は前年同期比で15億円の増収となった
- 医薬事業では、技術収入の減少や為替影響等により、海外の売上は前年同期比で43億円の減収となった
- 医薬品事業では、後期開発品が順調に進捗し、研究開発費は前年同期比で31億円の増加となった
- バイオケミカル事業では、為替の影響などにより売上が減少し、前年同期比で5億円の減益となった

Financial review

2016年第2四半期 連結決算概況 前年同期比

KYOWA KIRIN

国内医薬品は伸長したものの、技術収入の減少や研究開発費の増加
また為替の円高進行などがあり、連結では減収減益

(単位：億円)	2015年 2Q実績	2016年 2Q実績	差異	2016年 予想	進捗率
売上高	1,788	1,740	△47 (△3%)	3,440	51%
営業利益 [営業利益率]	224 [12.6%]	153 [8.8%]	△71 (△32%)	320	48%
経常利益	200	136	△63 (△32%)	260	53%
四半期純利益	95	107	+12 (+13%)	180	60%

(記載金額は表示単位未満は切り捨て、利益はのれん償却後利益で記載)

(2016年通期予想(2016年7月21日公表)に対する進捗率)

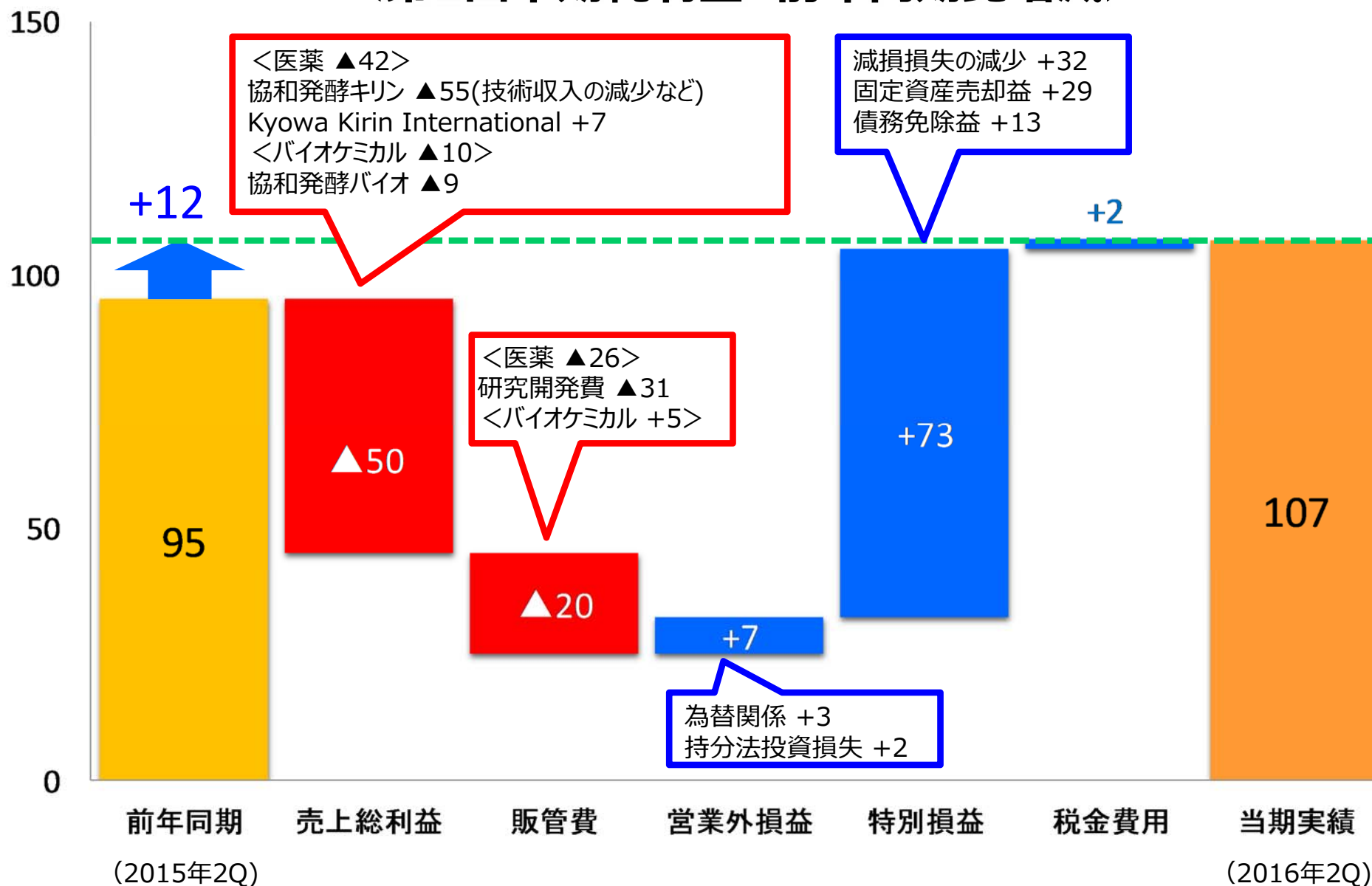
- ✓ 経常利益は、営業利益の減少などで減益
- ✓ 四半期純利益は、経常利益で減益となるも固定資産売却益等の特別利益の増加により増益

2016年第2四半期 連結決算概況 前年同期比損益分析

KYOWA KIRIN

(億円)

<第2四半期純利益 前年同期比増減>



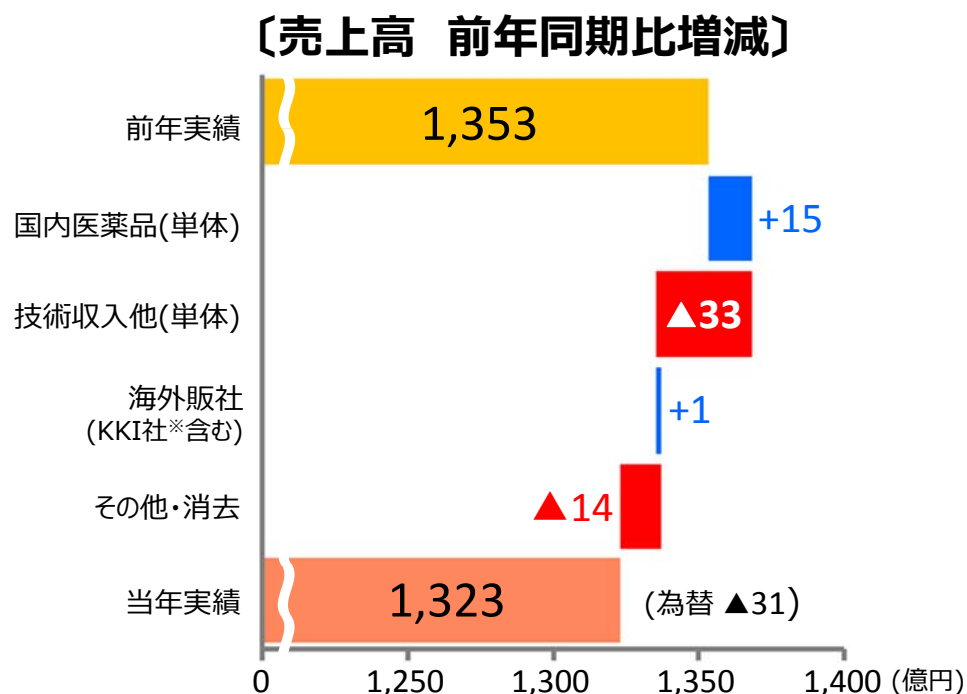
医薬事業は、新製品群を中心とした国内医薬品の伸長があったものの、
薬価基準引下げや技術収入の減少、研究開発費の増加等により減収減益
バイオケミカル事業は、為替の円高進行等により減収減益

(単位：億円)		2015年 2Q実績	2016年 2Q実績	差異
医薬事業	売上高	1,353	1,322	△30 (△2%)
	営業利益 [営業利益率]	185 [13.7%]	116 [8.8%]	△68 (△37%)
バイオケミカル 事業	売上高	450	431	△18 (△4%)
	営業利益 [営業利益率]	39 [8.9%]	34 [8.1%]	△5 (△13%)

(記載金額は表示単位未満は切り捨て、営業利益はのれん償却後利益で記載)

医薬：2016年第2四半期 前年同期比 損益分析

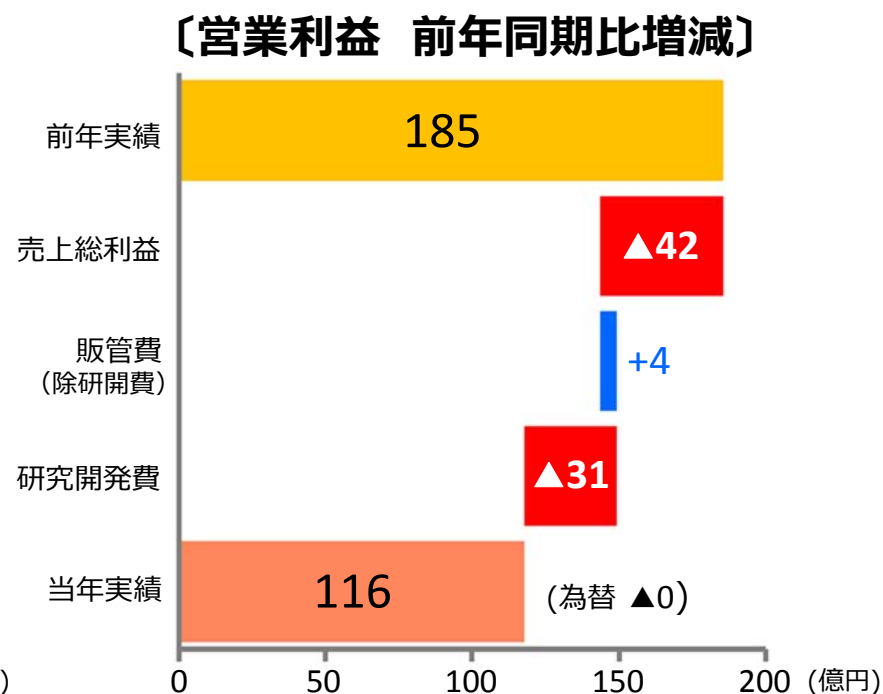
KYOWA KIRIN



※ProStrakan社は、2016年2月22日付でKyowa Kirin International社(KKI社)に社名変更しております。

<売上高 (▲30億円)>

- 国内医薬品 (+15) :
 - ・主力製品であるネスプは薬価基準引下げの影響があるものの堅調に推移し、ジェラスタ、ノウリアストなどの新製品群も順調に市場浸透
 - ・アレロックなどの長期収載品は、後発医薬品の浸透などの影響を受けて前年同期を下回る
- 技術収入他 (▲33) : 為替影響 (▲0)
 - ・ロイヤリティの減少など
- 海外販社 (+1) : 為替影響 (▲30)
 - ・KKI社 (+2) : Abstral、PecFentの伸長など



<営業利益 (▲68億円)>

- 売上総利益 (▲42) : 為替影響 (▲24)
 - ・ロイヤリティの減少や為替の円高進行など
- 販管費 (+4) : 為替影響 (+16)
 - ・Moventig 導入による費用増
 - ・為替の円高影響による費用減
- 研開発費 (▲31) : 為替影響 (+6)
 - ・国内における後期開発品費用の増加
 - ・海外開発費用の増加など

薬価基準引下げの影響はあるも、新製品群の販売拡大、
ネスブ®等の主力製品の伸長により国内医薬品売上は前年同期比で増収

製品名他	2015年 2Q実績	2016年 2Q実績	前年 同期比	増減要因	2016年 予想	進捗率*
ネスブ®	270	274	3 (+1%)	(+)前年同期比で市場拡大傾向 (△)薬価基準引下げの影響	565	49%
レグパラ®	85	94	9 (+10%)	(+)前年同期比で市場拡大傾向	197	48%
アレロック®	124	108	△16 (△13%)	(△)薬価基準引下げの影響や 後発医薬品の市場浸透など	178	61%
パタノール®	88	90	2 (+2%)	(△)競合品の市場浸透など	128	70%
ジーラスタ®	38	74	36 (+95%)	(+)引き続き、順調に市場へ浸透	159	47%
ノウリアスト®	22	33	10 (+48%)	(+)着実に市場へ浸透	70	47%
技術収入	37	7	△29 (△80%)	(△)ロイヤリティの減少など	64	11%

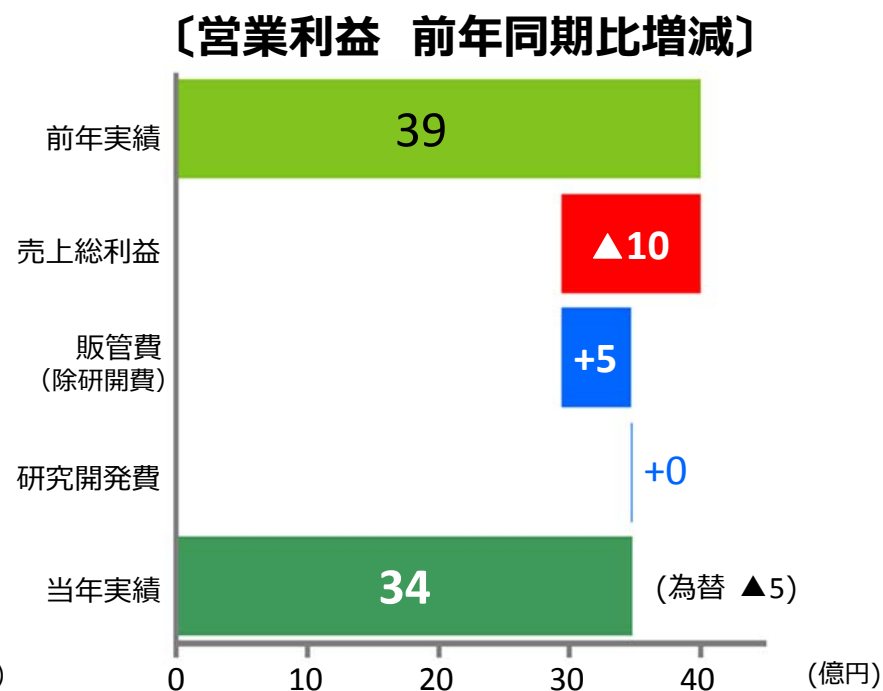
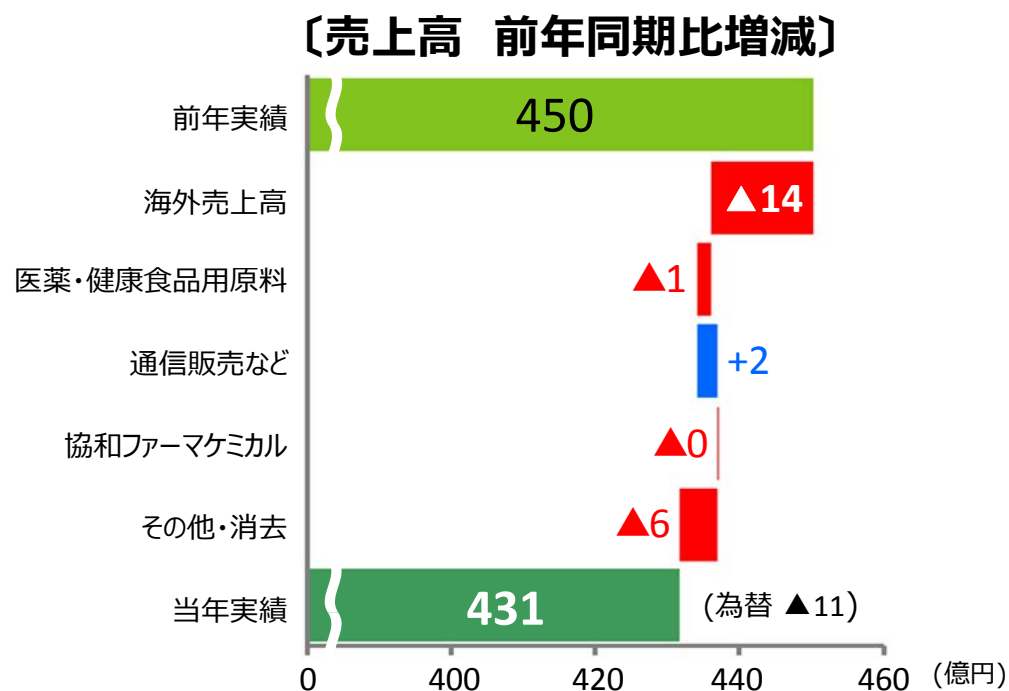
* 2016年通期の売上高予想(2016年7月29日公表)に対する進捗率

(単位 億円、 記載金額は表示単位未満を切り捨て)

© 2016 Kyowa Hakko Kirin Co., Ltd.

バイオケミカル：2016年第2四半期 前年同期比 損益分析

KYOWA KIRIN



<売上高 (▲18億円)>

- 海外売上高 (▲14)：為替影響 (▲11)
 - ・米州 (+2)：為替影響 (▲2)，培地用アミノ酸の伸長など
 - ・欧州 (▲7)：為替影響 (▲5)，前年5月の化粧品素材ビジネスの事業譲渡の影響
 - ・アジア・その他 (▲9)：為替影響 (▲3)，アジア向け医薬品原薬を中心に競争激化
- 医薬・健康食品用原料 (▲1)
- 通信販売など (+2)：通信販売は、新製品の伸長などにより堅調に推移
- 協和ファーマケミカル (▲0)

<営業利益 (▲5億円)>

- 売上総利益 (▲10)：為替影響 (▲7)
 - ・為替の円高進行や、アジアにおける競争激化による粗利の減少など
- 販管費 (+5)：為替影響 (+1)
 - ・通信販売の販売促進費の使用を一部上期から下期へ変更

業績予想の修正：連結業績 2016年予想(通期)

KYOWA KIRIN

(単位：億円)	2015年 実績	2016年予想 1/29公表(a)	2016年予想 7/21公表(b)	差異 (b)-(a)
売上高	3,643	3,510	3,440	△70
営業利益	437	300	320	20
経常利益	392	250	260	10
純利益	297	160	180	20

(記載金額は表示単位未満は切り捨て、 利益はのれん償却後利益で記載)

主な変動要因

- ・営業利益は、為替の円高進行やMoventigの導入に伴う費用増による減益要因や、国内医薬品の伸長などによる増益要因を想定
- ・純利益は、固定資産売却益の計上など

業績予想の修正：セグメント別 2016年予想(通期)

KYOWA KIRIN

(単位：億円)		2015年 実績	2016年予想 1/29公表(a)	2016年予想 7/29公表(b)	差異 (b)-(a)
医薬事業	売上高	2,792	2,680	2,640	△40
	営業利益 [営業利益率]	362 [13.0%]	230 [8.6%]	275 [10.4%]	45
バイオケミカル事業	売上高	888	870	840	△30
	営業利益 [営業利益率]	81 [9.1%]	70 [8.0%]	45 [5.4%]	△25

(記載金額は表示単位未満は切り捨て、営業利益はのれん償却後利益で記載)

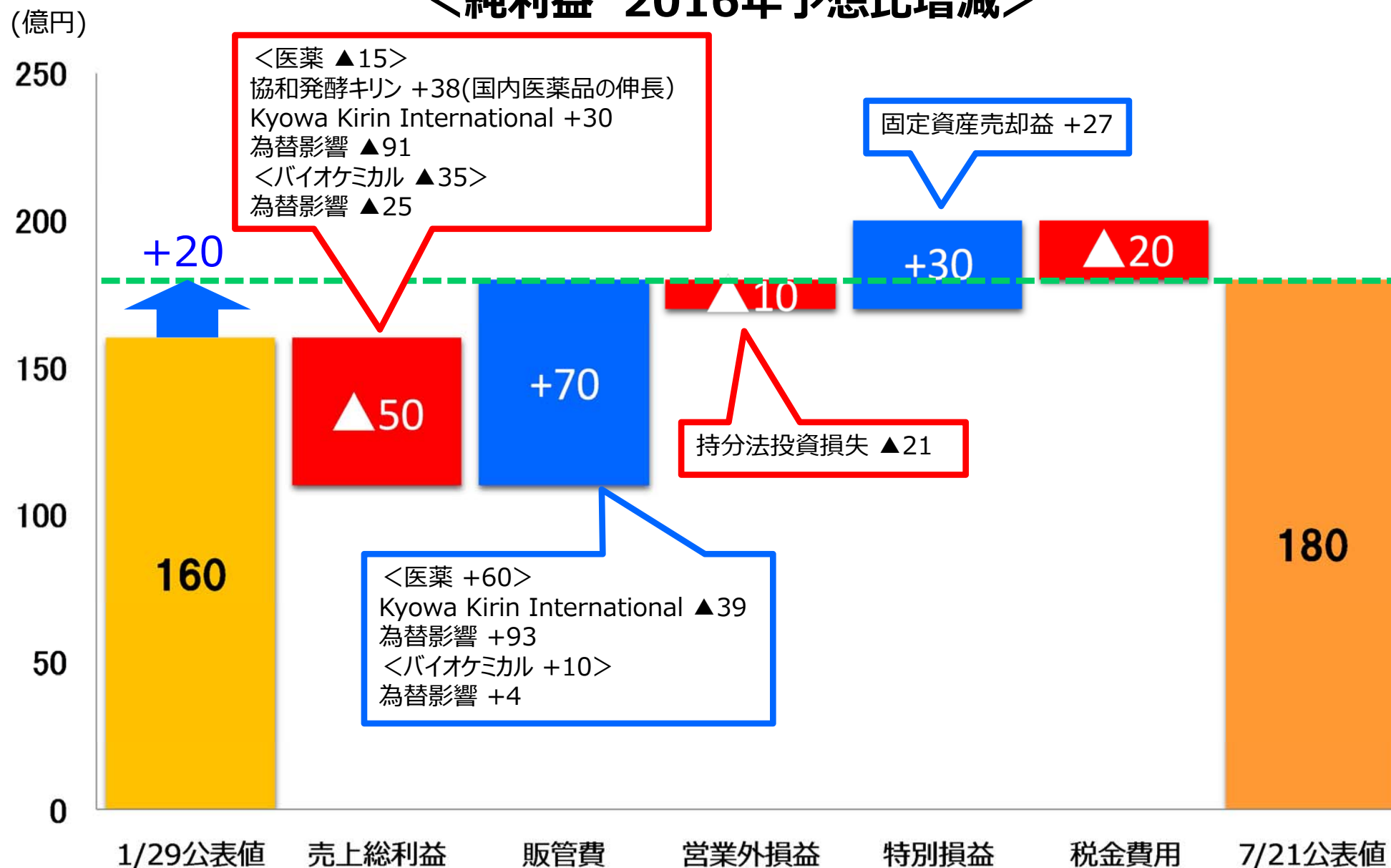
主な変動要因（営業利益）

- ・医薬事業は、Moventigの導入に伴う費用増による減益要因や、国内医薬品の伸長などによる増益要因を想定
- ・バイオケミカル事業は、為替の円高進行による減益要因などを想定

業績予想の修正：連結業績 2016年予想(通期)比

KYOWA KIRIN

<純利益 2016年予想比増減>



R & D review

国内：

- 2型糖尿病を合併する慢性腎臓病を対象としたRTA 402のPhase2中間解析結果の発表（5月）
- 好酸球性慢性副鼻腔炎を対象としたKHK4563のPhase2の開始（6月）
- 抗IL-17受容体完全ヒト抗体KHK4827（日本製品名：ルミセフ®）の製造販売承認取得（7月）

※ 2016年1月23日～2016年7月22日に達成したイベントを記載しています。

海外：

- Nivolumab (ブリストル・マイヤーズ スクイブ社) とKW-0761の併用療法による固形がんを対象としたPhase1/2の開始 (2月、米国)
- Benralizumab/KHK4563の喘息を対象としたPhase3結果の発表 (5月)
- 成人T細胞白血病リンパ腫を対象としたKW-0761のPhase2結果の発表 (6月、米国臨床腫瘍学会)
- 再生不良性貧血を対象としたAMG531のPhase3の開始 (6月、日本、韓国)
- 小児X染色体遺伝性低リン血症に対してKRN23が米国食品医薬品局 (FDA) よりBreakthrough Therapyに指定 (6月、米国)
- TIO又はENSを対象としたKRN23のPhase2の開始 (6月、日本、韓国)
- 潰瘍性大腸炎を対象としたKHK4083のPhase2の開始 (6月、北米、欧州)

※ 2016年1月23日～2016年7月22日に達成したイベントを記載しています。

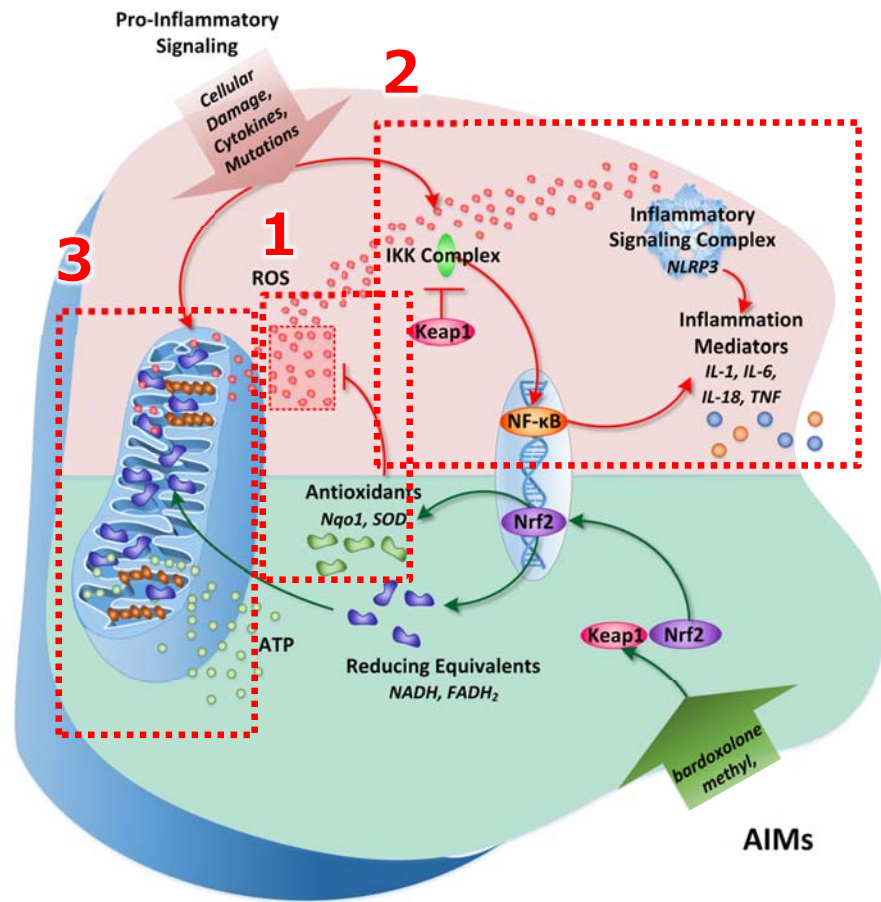
RTA 402

適応症	国・地域	開発段階		試験予定 症例数
		フェーズ2	フェーズ3	
糖尿病を合併する 慢性腎不全	日本	(2017/12)		108

1)

ClinicalTrials.gov identifier:

1) NCT02316821



AIMs: antioxidant inflammation modulators

● RTA 402は、Keap1/Nrf2 システムを活性化する

1. 抗酸化遺伝子群の発現を増強し、過剰の活性酸素種を除去する
2. NF-κBの活性化抑制や炎症性サイトカインの産生抑制等を介して、抗炎症作用を発揮する
3. ミトコンドリア機能障害とエネルギー代謝を改善する

2型糖尿病を合併する慢性腎臓病患者を対象としたRTA 402とプラセボのランダム化二重盲検比較試験（TSUBAKI試験）

有効性主要評価項目： 投与開始後16週におけるベースラインからの糸球体濾過量変化量（**イヌリンクリアランス法による**）

対象疾患stage： G3
目標症例数： 72例

**中間解析の結果、RTA 402群で腎機能の有意な改善を認めた。
また、本剤の安全性上の懸念は認められなかった。**



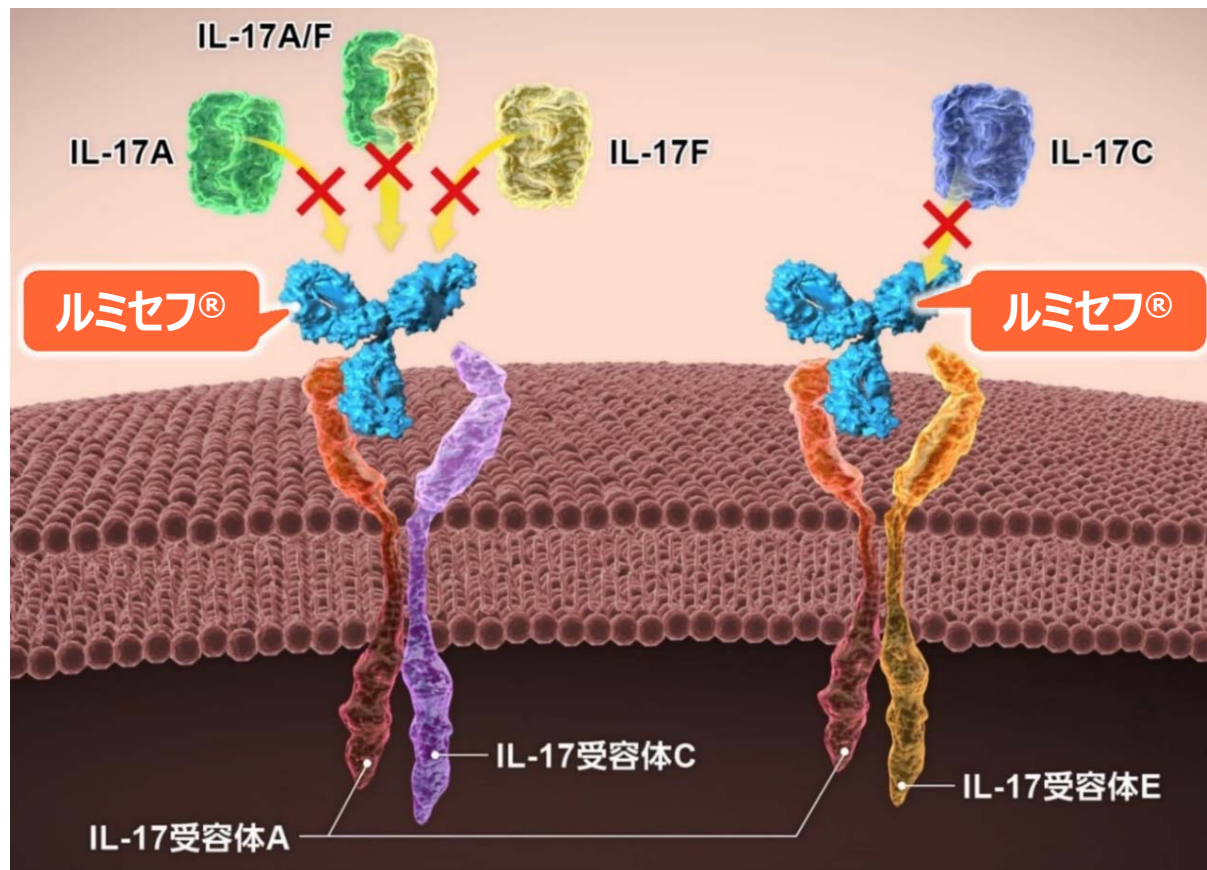
プロトコールを変更してstage G4(36例)を追加検討する予定

ルミセフ® の国内承認取得

2016年7月4日にルミセフ®皮下注210mgシリンジ（開発コード：KHK4827、一般名：ブロダルマブ（遺伝子組換え））の製造販売承認を世界で初めて取得しました

● ルミセフ®の作用機序

ルミセフ®は、IL-17受容体Aに選択的に結合し、IL-17A、IL-17F、IL-17A/FおよびIL-17CのIL-17受容体を介した作用を阻害することにより、尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症の症状を改善



- IL-17受容体AはIL-17受容体Cと共にIL-17A、IL-17F、およびIL-17A/Fの受容体を形成
- また、IL-17受容体AはIL-17受容体Eと共にIL-17Cの受容体を形成
- ルミセフ®はIL-17受容体Aに選択的に結合する完全ヒト型モノクローナル抗体であり、IL-17A、IL-17F、IL-17A/FおよびIL-17CのIL-17受容体への結合を阻害する

販売名	ルミセフ®皮下注210mgシリンジ
一般名	ブロダルマブ（遺伝子組換え）
効能・効果	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症
用法・用量	通常、成人にはブロダルマブ（遺伝子組換え）として1回210mgを、初回、1週後、2週後に皮下投与し、以降、2週間の間隔で皮下投与する。
承認年月	2016年7月4日*

- 世界で初めて製造販売承認を取得したヒト型IL-17受容体Aモノクローナル抗体
- 日本人乾癬患者を対象とした臨床試験において、約60%の被験者で臨床的に意義の大きい皮膚症状の完全消失（PASI 100反応）が認められ（投与12週）、本剤の高い治療効果が確認されている¹⁾
- 今回承認を取得した疾患の臨床症状およびQOL（生活の質）を改善し、治療満足度を高めることが期待される

1) J Dermatol Sci 2016, 81, p44-52

* 2016年8月1日において薬価基準未収載

KHK4083

適応症	国・地域	開発段階		試験予定 症例数
		フェーズ2	フェーズ3	
潰瘍性大腸炎	北米/欧州	(2018/9)		60

2)

推定患者数

米国 約65万人¹⁾

1) Diagnosed Prevalent Cases, Decision Resources (2015)

ClinicalTrials.gov identifier:

2) NCT02647866

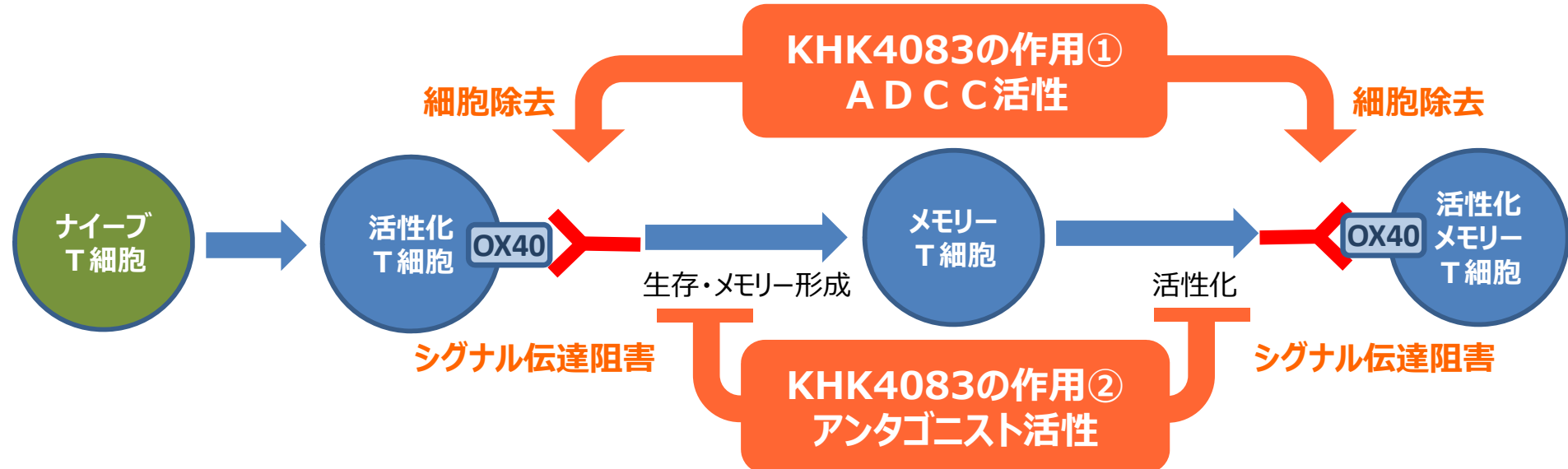
KHK4083 :

ヒト抗体産生マウスを使用して創出されたOX40を標的とする完全ヒト抗体。ポテリジェント技術により強化されたADCC活性と、OX40リガンドの作用を阻害するアンタゴニスト活性を併せ持つ。

OX40 :

TNF受容体スーパーファミリーに属する分子で、主に活性化T細胞に発現する。リガンドであるOX40リガンドが結合すると、活性化T細胞の生存が亢進し、メモリーT細胞の形成が促進される。また、メモリーT細胞の再活性化にも重要な役割を果たす。潰瘍性大腸炎をはじめとする多くの免疫疾患においてOX40の関与が示唆されている。¹⁾

1) Ishii N (2010) Adv Immunol, **105**, 63



①及び②の作用による強力な獲得免疫の阻害に基づく高い薬効が期待される

KHK4083第Ⅱ相臨床試験：

活動期潰瘍性大腸炎患者を対象としたプラセボ対照二重盲検比較試験



主要評価項目： 12週および52週時におけるmodified Mayo
endoscopy sub-score (mMES)¹⁾ の変化率
目標症例数： 60例

1) 潰瘍性大腸炎の大腸炎症症状の改善を内視鏡により評価する指標

KW-0761 (血液がん領域)¹⁾

適応症		国・地域	開発段階	()は試験終了予定		試験予定 症例数	
			フェーズ2	フェーズ3	申請		
ATL	再発/難治	米国/欧州/その他 ²⁾	(2016/11)			71	4)
CTCL	再発/難治	米国/欧州/日本/その他 ²⁾		(2017/2)		372	5)

年間発症例数 米国 CTCL: 約1,500例³⁾

1) 日本で上市済み (製品名「ボテリジオ®」)

2) 選択基準にCCR4陽性設定なし

3) SEER Data (2001-2007)

ClinicalTrials.gov identifier:

4) NCT01626664; 5) NCT01728805

KW-0761 (固形がん領域)

適応症	国・地域	併用薬	開発段階	パートナー	試験予定 症例数	
			()は試験終了予定 フェーズ1			
固形がん	米国	Durvalumab (MEDI4736) or Tremelimumab	(2017/11)	AstraZeneca	108	1)
	米国	PF-05082566	(2018/12)	Pfizer	70	2)
	日本	Nivolumab	(2017/10)	小野薬品工業 Bristol-Myers Squibb	108	3)
	米国	Nivolumab	(2017/8)	Bristol-Myers Squibb	187	4)
	米国	Docetaxel	(2016/12)	-	13	5)

ClinicalTrials.gov identifier:

1) NCT02301130; 2) NCT02444793; 3) NCT02476123; 4) NCT02705105; 5) NCT02358473

KW-6002¹⁾

適応症	国・地域	開発段階 ()は試験終了予定		試験予定 症例数
		フェーズ3	申請	
パーキンソン病	北米/欧州/その他	(2016/11)		609

4)

治療対象患者数 日本 約14万人²⁾ 米国 約57万人³⁾

1) 日本で上市済み（製品名「ノウリアスト®」）

2) 厚生労働省: 平成23年 患者調査（傷病分類編）

3) Decision Resources社調査

ClinicalTrials.gov identifier:

4) NCT01968031

KRN23

適応症	国・地域	開発段階 ()は試験終了予定		パートナー	試験予定 症例数	
		フェーズ2	フェーズ3			
XLH	小児	米国/欧州	(2017/3)	Ultragenyx Pharmaceutical (米国/欧州)	50	2)
		米国	(2017/12)		10	3)
	成人	米国	(2016/9)		25	4)
		北米/欧州/日本/韓国			120	5)
		北米/欧州/日本/韓国			10	6)
			(2017/3)			

推定患者数 (XLH)

日本 成人約5,000人¹⁾、小児約1,000人¹⁾
 米国 成人約12,000人¹⁾、小児約3,000人¹⁾

1) 本疾患の推定発症率 (20,000人に一人程度) に基づく概算

ClinicalTrials.gov identifier:

2) NCT02163577; 3) NCT02750618; 4) NCT02312687;

5) NCT02526160; 6) NCT02537431

KRN23

適応症	国・地域	開発段階 ()は試験終了予定		パートナー	試験予定 症例数	
		フェーズ2	フェーズ3			
TIO/ENS	米国	(2016/9)		Ultragenyx Pharmaceutical (米国/欧州)	15	3)
	日本/韓国	(2017/7)			6	4)

推定患者数（TIO/ENS） 日本 約30人¹⁾、 米国 約500～1,000人²⁾

1) 2010年 厚生労働省ホルモン受容機構異常に関する疫学調査研究

2) Ultragenyx Pharmaceutical社調査

ClinicalTrials.gov identifier:

3) NCT02304367; 4) NCT02722798

米国食品医薬品局が小児 X 染色体遺伝性低リン血症に対して
抗 FGF23 完全ヒト抗体（KRN23）を Breakthrough Therapy¹⁾ に指定²⁾

Breakthrough Therapy Designation とは

■ 指定基準

様々な重篤な疾患に対し、既存の薬剤よりも臨床的なエンドポイントにおいて本質的な（Substantial）改善を示す可能性のある画期的新薬を指定

■ 指定によるメリット

1. 指定薬剤のより効率的な開発に向け、試験デザインや解析方法に対するFDAからのタイムリーな助言や依頼者との相互コミュニケーションの実施
2. 経験豊かなSenior Managerの審査への積極的かつ協力的な関与
3. 予定される申請パッケージのうちの一部を先行して審査するRolling review適応の可能性
4. Accelerated Approval及びPriority reviewの対象となる可能性

1) 2012年7月にFDASIA法³⁾に基づき規定された制度

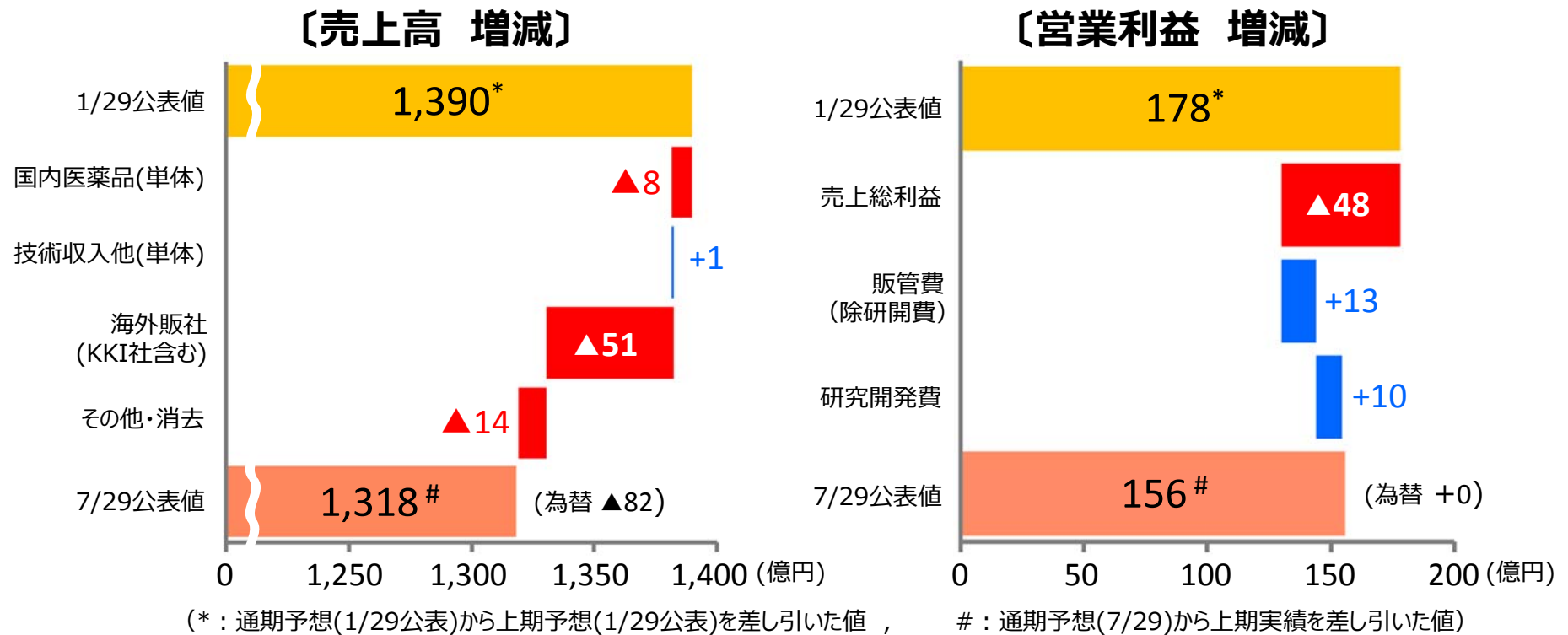
2) KRN23は、FDAよりX染色体遺伝性低リン血症に対してFast Track及びOrphan Drugの指定を受けています。

3) Food and Drug Administration Safety and Innovation Act

APPENDIX

業績予想の修正：医薬事業 2016年予想(下期)比

KYOWA KIRIN



<売上高 (▲72億円) >

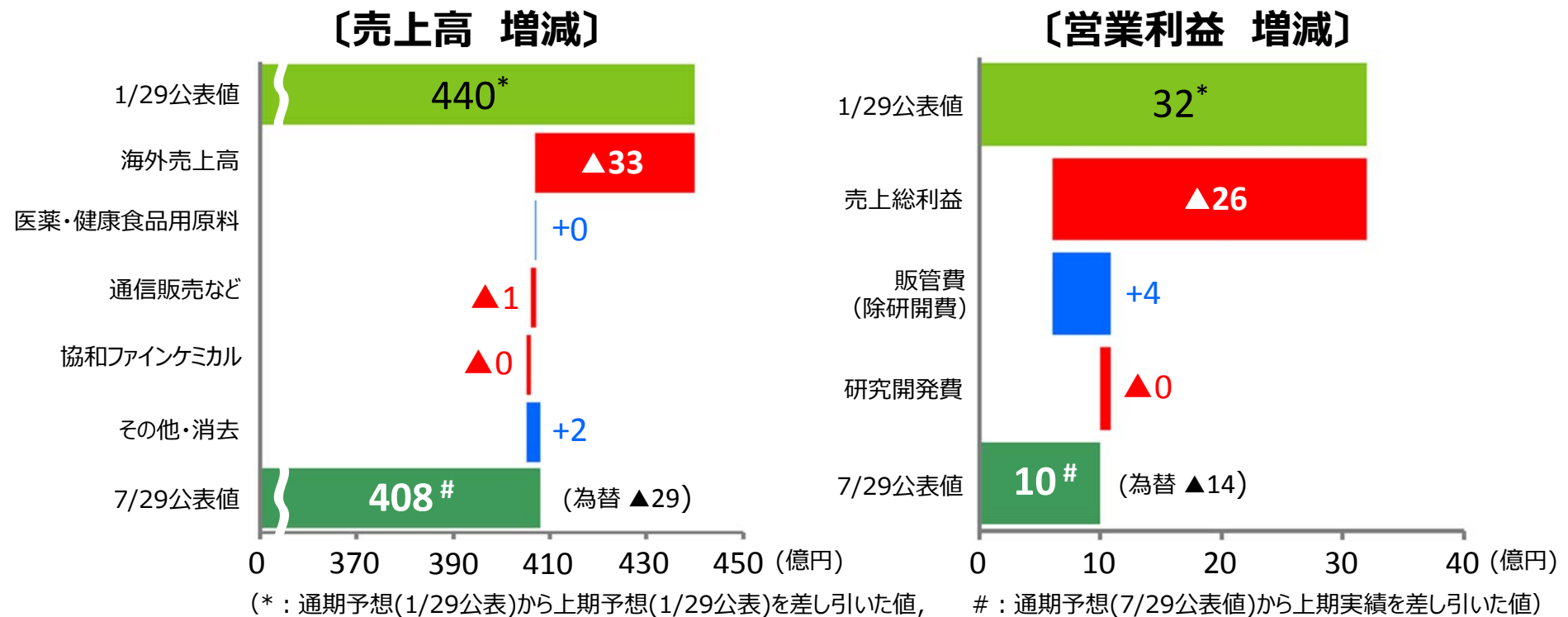
- 国内医薬品 (▲8) : 上期の反動など
- 技術収入など (+1) : 為替影響 (▲2)
- 海外販社 (▲51) : 為替影響 (▲73)
 - ・KKI社の一部製品の伸長などを見込む

<営業利益 (▲22億円) >

- 売上総利益 (▲48) : 為替影響 (▲67)
 - ・KKIの増収影響など
- 販管費 (+13) : 為替影響 (+47)
 - ・Moventig導入などで費用増加
- 研開発費 (+10) : 為替影響 (+20)
 - ・上期からの期ズレや開発費の費用増加などを見込む

業績予想の修正：バイオケミカル事業 2016年予想(下期)比

KYOWA KIRIN



<売上高 (▲32億円)>

- 海外売上高 (▲33) : 為替影響 (▲29)
 - ・米州 (▲9) : 為替影響 (▲7)
 - ・欧州 (▲9) : 為替影響 (▲13) , 為替の影響があるも需要の堅調な製品の上振れを見込む
 - ・アジア・その他 (▲15) : 為替影響 (▲9) , アジア向け医薬品原薬の競争激化を見込む
- 医薬・健康食品用原料 (+0) :
- 通信販売など (▲1) :
- 協和ファーマケミカル (▲0) :

<営業利益 (▲22億円)>

- 売上総利益 (▲26) : 為替影響 (▲18)
 - ・減益要因は、為替の円高進行や、アジアにおける競争激化を想定
- 販管費 (+4) : 為替影響 (+3)

Medgenics社との間で、重度の小児炎症性腸疾患（IBD）に対する抗LIGHTモノクローナル抗体の開発に関する契約を締結

本化合物の特徴：

炎症性腸疾患や自己免疫疾患に関与しているサイトカインであるLIGHT分子*に結合するヒトモノクローナル抗体

提携内容：

Medgenics社は重症の小児IBDを対象とした探索的臨床試験を実施
探索的臨床試験後、Medgenics社は開発継続の有無を決定
協和発酵キリンは共同開発あるいは導出のいずれかを選択

テリトリー：

北米： Medgenics社
欧州： Medgenics社あるいは協和発酵キリン*
その他： 協和発酵キリン

*Lymphotoxin-like, exhibits Inducible expression, and competes with HSV Glycoprotein D for HVEM, a receptor expressed by T lymphocytes)

**協和発酵キリンが共同開発あるいは導出いずれかのオプションを選択した場合により異なる

開発コード	先行バイオ医薬品		国・地域	開発段階			
	一般名	商品名		フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	
FKB327	アダリムマブ	ヒュミラ	米国/その他				1)
FKB238	ベバシズマブ	アバスチン	英国				2)
非開示	非開示	非開示	非開示	品目決定			

注) バイオシミラー医薬品は協和キリン富士フイルムバイオロジクス株式会社（FKB）が開発

ClinicalTrials.gov identifier: 1) NCT02260791

2) AstraZeneca社とFKBの合併会社（Centus Biotherapeutics社）が開発中

Name	Partner	Phase			Filing	Remarks
		I	II	III		
Tivozanib	AVEO				欧州	進行性腎細胞癌 (VEGF receptor inhibitor) (KRN951)
Benralizumab (MEDI-563)	AstraZeneca /MedImmune					喘息 (Anti-IL-5R antibody) (KHK4563) POTELLIGENT®
						COPD
KRN5500	Midatech Pharma US					神経因性疼痛
RGI-2001	REGiMMUNE	Phase1/2				免疫抑制

(2016年7月22日現在)

期中平均の為替レート

平均為替レート	2015年 2Q実績	2016年 2Q実績	前年 同期比	2016年 1-6月予想 (1/29 公表)
米ドル(円/USD)	120円	114円	△6円	119円
ユーロ(円/EUR)	135円	127円	△8円	137円
英ポンド(円/GBP)	183円	165円	△18円	187円

2016年第2四半期の為替変動影響額 (前年同期比)

セグメント	通貨	売上高	営業利益
医薬事業	USドル	△0.6億円	+2.8億円
	ユーロ	△0.2億円	△0.0億円
	英ポンド	△22.3億円	△0.1億円
バイオケミカル事業	USドル	△5.6億円	△3.1億円
	ユーロ	△5.0億円	△2.9億円
	英ポンド	－円	－円

為替レートの2016年予想(1-12月)

平均為替レート	2016年予想 1/29公表(a)	2016年予想 7/29公表(b)	差異 (b)-(a)	2016年 7-12月予想
米ドル(円/USD)	119円	109円	△10円	103円
ユーロ(円/EUR)	137円	121円	△16円	114円
英ポンド(円/GBP)	187円	150円	△37円	135円

2016年度(連結)業績予想の下半期(7-12月) 為替感応度の概算値※

通貨	変動	売上高への影響	営業利益への影響
USドル	1円高	約1.3億円減少	約0.1億円減少
ユーロ	1円高	約0.6億円減少	約0.3億円減少
英ポンド	1円高	約1.1億円減少	約0.1億円増加

※為替レートが、業績予想の前提から変動した場合の6か月間の影響額を試算したもの

ADCC	Antigen Dependent Cellular Cytotoxicity (抗体依存性細胞傷害)
ATL	Adult T-cell Leukemia/Lymphoma (成人T細胞白血病リンパ腫)
CCR4	Chemokine (C-C motif) Receptor 4
CTCL	Cutaneous T-Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)
ENS	Epidermal Nevus Syndrome (表皮母斑症候群)
Keap1	Kelch-like ECH-associated protein 1
NF-E2	Nuclear factor erythroid 2
Nrf2	NF-E2-related factor 2
TIO	Tumor Induced Osteomalacia (腫瘍性骨軟化症)
TNF	Tumor Necrosis Factor (腫瘍壊死因子)
XLH	X-linked Hypophosphatemia (X染色体遺伝性低リン血症)

KYOWA KIRIN

協和発酵キリングroupは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。

本資料のお問合せ先

協和発酵キリン株式会社

コーポレートコミュニケーション部 IRグループ 03-5205-7206